

アース製薬は
2025年に設立**100**周年を迎えました

アース製薬は、「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という理念のもと、大阪・難波で創業して以来、

人々の健康と快適な暮らしを支えることを使命に、事業を展開してきました。

創業当初から「お客様目線」を大切にし、変化を恐れず挑戦を続ける姿勢が、数々の商品開発やサービスの原動力となっています。

現在では、社名の「アース」を体現するようにアジアをはじめとする世界約40の国と地域で事業を展開し、

人々の暮らしに寄り添った商品・サービスを提供しています。

これからもステークホルダーの皆様と共に、社会の変化に柔軟に対応しながら、私たちらしい方法で

地球との共生の実現に向けて挑戦を続け、次の100年に向けた持続的な成長と企業価値の向上を目指します。



**アースグループ
経営理念**

いのち
生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。

We act to live in harmony with the Earth.

**Earth
Policy**

アースポリシーは、経営理念達成のために不可欠な行動様式です。

お客様目線による市場創造

Creating a Market with customers

熱意・創意・誠意

Passion • Innovation • Integrity

すぐやる・必ずやる・最後までやる

Momentum • Achievement

Earth Value

アースバリューは、事業を運営していく上で社員全員が持つ共通の価値観です。

全員参画

One Earth

コミュニケーション

Open communication

人がすべて

Diversity

企業ロゴのメッセージが意味するもの

アース製菓の企業ロゴの下にあるメッセージ「Act For Life」は、経営理念を英語で簡潔に表現したもので、商品・サービスの提供を通じて、人々の生命・生活（Life）に寄り添い、安全で快適な生活に貢献していく（Act）というアースグループのお客様との約束を表しています。

「地球を、キモチいい家に。」は、お客様との約束である「Act For Life」を日本語で親しみやすく、わかりやすい表現にしたものです。「キモチいい」は、安全で快適であることを表しています。

地球を、キモチいい家に。

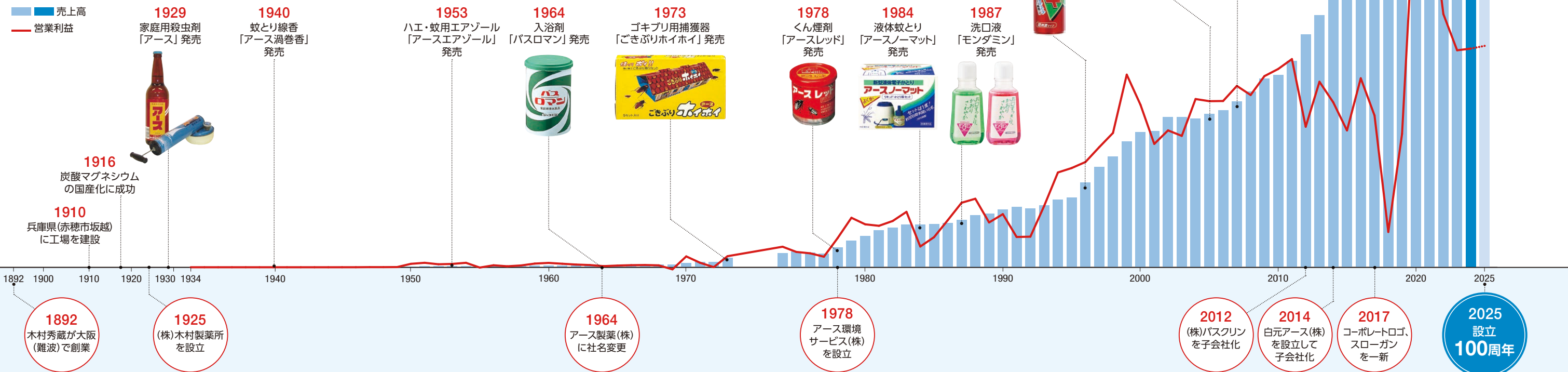


「安全で快適な暮らし」を届け続けて1世紀～アースの歴史～

アース製薬は、**100年**にわたって
時代の変化に応える新たな商品・サービスを
生み出し続けてきました。

アース製薬は1892年の創業、そして1925年の会社設立以来、「お客様目線」を大切に、新商品の開発と既存サービスの改良に真摯に向き合ってきました。設立100周年を迎えた現在は、国内のみならず国外で人々の健康と快適な生活の実現に貢献し続け、社会と共に着実な成長を遂げています。

売上高・営業利益の推移



※2022年以降は収益認識に関する会計基準を適用

1890～

炭酸マグネシウムの国産化に成功

1916年、天然ゴムの耐久性を高める特性がある炭酸マグネシウムの国産化に成功。アース製薬の前身である木村製薬所はにがり産業のトップランナーとなりました。殺虫ニーズの高まりを受けて殺虫剤「アース」を発売。無料配布などの販促活動によりニーズ拡大に成功し、アース製薬の認知度が全国的に広まりました。

1970～

大塚グループの資本参加

アース製薬は経営危機の状態に陥り、1970年、経営再建のために取引のあった株式会社大塚製薬工場に資金援助を要請し、故大塚正富氏を社長に招聘しました。また、1973年には「ごきぶりホイホイ」が発売され、爆発的なヒットにより累積赤字を解消、起死回生を果たしました。

1980～

綿密な市場調査でグローバル展開を推進

1980年のARS CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.（現 Earth (Thailand) Co.,Ltd.）設立を皮切りに、グローバル戦略を推進。国によって異なる生活習慣や嗜好性などを綿密に調査し、各国の特性に合わせたマーケティング活動を行っています。現在は世界約40カ国・地域に商品を輸出しています。

2000～

「殺虫剤」から「虫ケア用品*」へ

アース製薬の開発の歴史は、既存商品の改良の歴史とも言えます。競合商品を研究し、蒸気で薬剤を拡散させる「アースレッド」や強力な噴霧力の「ゴキジェットプロ」など、より効果のある商品を次々と開発。2017年には「虫ケア用品」という独自の用語を提唱し、消費者への配慮や商品の安全性、環境対応など、機能性の追求に留まらない商品開発に取り組んでいます。

*P.68「用語集」参照

海外展開

- 1980** ARS CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD. (現 Earth (Thailand) Co., Ltd.) を設立
- 1990** 天津阿斯化学有限公司を設立

- 2004** アース環境サービス(株)が北京阿斯環境工程有限公司を設立
- 2005** 安速日用化学(蘇州)有限公司を設立

- 2012** (株)白元が白元日用品製造(深圳)有限公司を設立
- 2015** 安斯(上海)管理有限公司(現 安斯(上海)投資有限公司)を設立

- 2016** アース環境サービス(株)が上海安瞬環境工程有限公司、Earth Environmental Service (Thailand) Co.,Ltd.、ARS Environmental Service (Thailand) Co.,Ltd. を設立

- 2017** A My Gia Joint Stock Company (現 Earth Corporation Vietnam) を子会社化
- 2019** EARTH HOME PRODUCTS (MALAYSIA) SDN.BHD. を設立
アース環境サービス(株)が日商阿斯環境服務股份有限公司を設立

- 2020** アース環境サービス(株)がEarth Environmental Service Vietnam Co.,Ltd.を設立
- 2022** EARTH HOMECARE PRODUCTS (PHILIPPINES), INC. を設立

目次

アース製薬
設立100周年

第1章

「快適」を世界中に届ける

アースグループ経営理念	1
「安全で快適な暮らし」を届け続けて1世紀～アースの歴史～	2
目次	4
アースブランドは世界の人々の笑顔と共に～At a Glance～	6
社長メッセージ	8
アース製薬の価値創造プロセス	12
アース製薬の価値創造プロセス解説	14
ステークホルダーエンゲージメント	16
リスクと機会、マテリアリティ	18

第2章

価値創造のための戦略の実践

中期経営計画	20
財務戦略	24
アース製薬の人的資本経営	28
人財戦略	30
研究開発戦略 [本部長メッセージ]	32
研究開発戦略	34
家庭用品事業	36
総合環境衛生事業	40
特集 MA-Tシステム®の社会実装で「健康」と「快適な暮らし」を追求	42

第3章

ステークホルダーと共に「快適な暮らし」を守り、届ける

安心で快適な暮らしに貢献する製品・サービスの提供	44
気候変動への対応	46
地球環境問題への配慮	48
持続可能な調達	50
コンプライアンス	52
リスクマネジメント	53

第4章

「快適な暮らし」を創造し続けるための経営システム

社外取締役メッセージ	54
コーポレート・ガバナンス	56
役員一覧	62

第5章

データ

財務・非財務ハイライト	64
11カ年の主要財務・非財務データ	66
用語集／真正性表明	68
会社概要／株式情報	69

編集方針

「アース製薬 統合報告書2025」は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様には、当社グループが創出する価値と、価値を創出し続けるための取り組みについてより一層ご理解いただくことを目的に制作しました。価値創造プロセスや事業、中期経営計画、マテリアリティへの取り組みなど、財務情報と非財務情報を一体的に報告することを主眼に置いて編集に当たっています。本報告書をもとに、ステークホルダーの皆様との対話を一層深めていければ幸いです。

対象期間 2024年度（2024年1月1日～2024年12月31日）
※ 一部、同期間以降の活動内容を含みます。

対象組織 アース製薬株式会社および国内外のグループ会社
※ ただし、一部の報告事項は、アース製薬単体について報告しています。

将来見通しに関する記述について

本報告書で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。

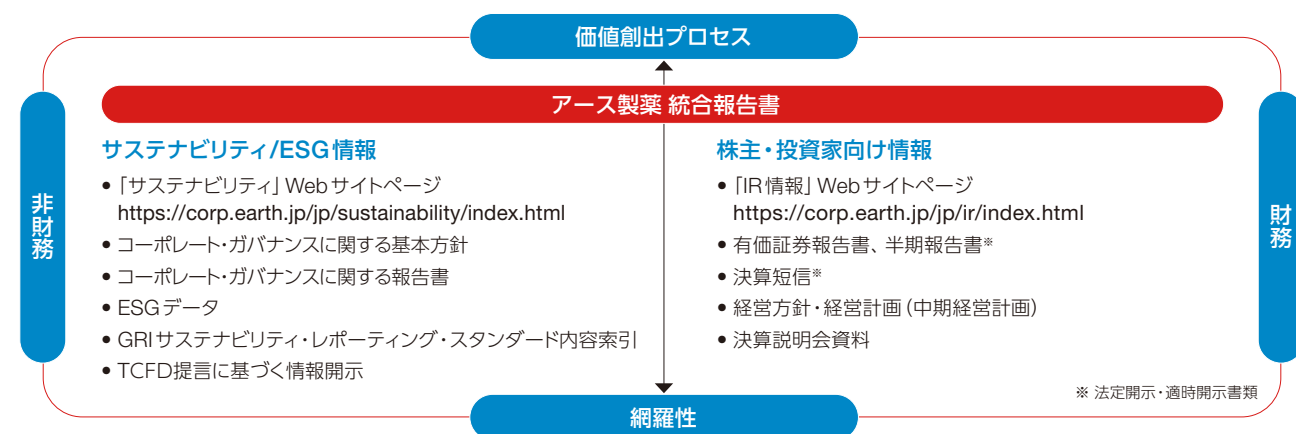
※ 記載の数値は、桁数未満を切り捨てたものになります。このため、合計値が個々の数値の合計と一致しない場合があります。
※ 本レポートに記載されている商品名は、当社または提携会社の登録商標です。
※ 本レポートに記載されているコメント情報などは、適切に入手されたものです。

参考にしたガイドライン

- 国際会計基準 (IFRS) 財団「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」



情報開示体系



アースブランドは世界の人々の笑顔と共に～At a Glance～

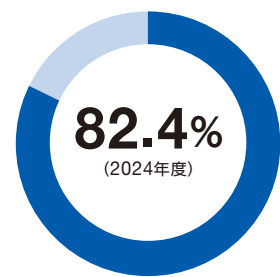
アース製薬は、安全で、安心で、使うほどに心地よい毎日を実現するため、暮らしの中に寄り添った事業を行っています。
家庭用品事業と総合環境衛生事業の2つの事業を通して、人々の健康で快適な暮らしを支えます。

家庭用品事業 ▶ P.36

売上高

1,489億13百万円

売上高比率



※売上高には内部売上高を含みます。

強みと注力分野

圧倒的なトップシェアを誇る虫ケア用品を中心に、入浴剤やオーラルケア用品、衣類用防虫剤、掃除用品、ペット用品など、日用品の幅広い領域で商品を展開しています。機動力・組織力を活かした売り場展開力で国内市場の活性化を進めるほか、グローバル展開にも注力し、海外への輸出展開は約40カ国・地域まで拡大しています。「お客様目線での商品開発」により社会のニーズに応え、社会から信頼される企業を目指しています。



主要商品

- 虫ケア用品 ・ハエ・蚊用:アースノーマット ・ゴキブリ用:ブラックキャップ
- 日用品 ・入浴剤:バスクリン ・洗口液:モンダミン

主なグループ会社

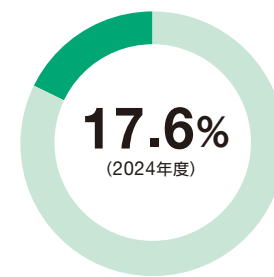
(株)バスクリン、白元アース(株)、アース・ペット(株)

総合環境衛生事業 ▶ P.40

売上高

318億88百万円

売上高比率



※売上高には内部売上高を含みます。

強みと注力分野

食品、医薬品から先端医療分野まで、異物混入や汚染から製品を守るために、「総合環境衛生管理*」という独自のサービスを提供し、事業所の品質保証活動を支援しています。バックボーンとなっているのは、大塚グループのGMPと現場で培ってきた独自の技術・ノウハウです。彩都総合研究所(T-CUBE)では、AIを活用した捕虫・分析システムの開発や、酸化制御技術の「MA-Tシステム®」を利用した除菌・消臭の産業応用などにも取り組み、社会に貢献する革新的なイノベーションを生み出す核としての役割を果たしています。特に未来医療・先端医療においては、再生医療分野における専門人材の育成や除染など衛生管理手法の開発およびNakanoshima Gross(未来医療国際拠点)への参画など、イノベーション創出に取り組んでいます。

*P.68「用語集」参照

主要サービス

- 各種環境モニタリング ・微生物・異物などの検査・同定
- ペストコントロール、微生物汚染防除 ・サニテーション、特殊清掃
- 品質保証システム構築・規格認証取得サポート、適合監査 など

主なグループ会社

アース環境サービス(株)

数字で見るアース製薬(2024年度)

アース製薬では、常に「お客様目線」を大切に努力を重ね、新商品の開発と既存サービスの改良に取り組んでいます。
市場シェアはお客様の支持率と考え、安心して快適な暮らしに貢献する商品・サービスを提供し続けます。

財務 ▶ P.22

売上高

1,692億78百万円

前年度比6.9% ↑

営業利益

64億25百万円

前年度比0.9% ↑

ROE

5.1%

前年度比1.2pt ↓

1株当たり年間配当金

120円

前年度比+2円 ↑
※1株当たり記念配当金2円を含む。

DOE

3.9%

前年度比0.1pt ↓

アースブランドを支える力

「お客様のお気づきを活かす
窓口部*」対応件数

約90,000件

*P.68「用語集」参照

▶ P.45

研究開発部門に
属する社員

347名(連結)

▶ P.34

製造拠点数

12カ所(グローバル)

▶ P.27

展開国数

世界約40カ国・地域へ輸出版売

▶ P.38

総合環境衛生事業
契約件数

15,560社

▶ P.40

従業員エンゲージメント
サーベイ

B

※エンゲージメント・レーティングはAAA～DDの
全11段階評価

▶ P.31

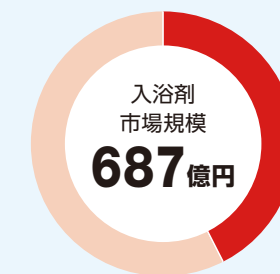
市場ポジション

虫ケア用品 国内シェア率 57.3%



出所:インテージSRI+ 殺虫剤市場(園芸
剤除く) 全国計・全業態計
2024年1月～12月 累計販売金額

入浴剤 国内シェア率 42.5%



出所:インテージSRI+ 入浴剤市場
全国計・全業態計 2024年1月～12月
累計販売金額

※アースグループ
(アース製薬、バスクリン、白元アース)

社長メッセージ

100年の歩みを礎に、アースグループは新たな成長ステージへ。 ホールディングス機能の強化と共にグローバル展開を加速し、 世界中のお客様の快適な暮らしを支える未来を創造します。

利益は後からついてくる——未来への準備期間としての3年間

外部環境の影響を受けつつも、海外売上拡大・収益構造改革・グループ経営力強化が確実に進捗。

私は、課題というものはいつの時代にもあって、それいかにタイムリーに対応していくかが重要だと考えています。現在進捗している中期経営計画「Act For SMILE COMPASS 2026」は、気候変動や感染症の蔓延、資材の高騰や為替の変動、さらには消費者行動の変化など、外部環境が大きく動く中で策定しました。この中計の3年間は、大きな飛躍を遂げる前の「準備の3年間」と設定しています。中期経営計画初年度である2024年度を振り返ると、コスト高や円安といった利益に大きなインパクトがある状況の中でも、海外売上拡大、収益構造改革、グループ経営力強化に取り組んできました。

海外売上拡大については、すでに種まきのフェーズは終わっており、2024年度には売上高200億円規模に成長しました。海外の主力と位置付けているタイやベトナムでは、日本と同様にお客様の支持である市場シェアの獲得を目標としており、タイでの虫ケア用品シェアNo.1も視野に入ってきています。さらに、サウジアラビアや北米、香港、台湾などへの輸出事業にも注力し、さらなる海外売上拡大を目指しています。

また、グループ経営力強化と収益構造改革に取り組み、環境変化に柔軟に対応できる体質改善を図っています。当然のことながら、売上の向上とコスト管理による利益率の向上、この2つが経営強靱化の両輪となります。前者だけではガバナンスに課題が出がちとなり、後者だけでは会社の雰囲気はぎこちないものになってしまうでしょう。

私は、「利益は後からついてくる」という考え方を大切にしています。売上を最大化するためのアクセルを踏むとともに、コスト管理や人財の適材適所への配置など、組織の生産性向上に向けた取り組みを続けることで、2026年度の連結売上高1,700億円、さらには収益認識基準が変わる前の2021年に一度達成した売上高2,000億円*をターゲットに、着実に成長を遂げていきます。

グループのシナジーを最大化するためホールディングス機能の強化を図る

スケールメリットを活かし、戦略的な調達や経営判断をする時が来た。

アース製薬は、2012年にバスクリン、2014年に白元アースを子会社化し、さらには海外での事業展開やM&Aを積極的に進めてきました。その結果、違う文化を持った色々な会社が一つになってグループを作っています。これまでは、各社の自律性を尊重し、社員のコミュニケーションの活性化など企業文化の融合を優先していました。しかし今後は、外部環境の変化に柔軟かつタイムリーに対応するために一定のルールを設け、グループ全体の効率化を図る必要があると考えています。

▶ P.20
中期経営計画
▶ P.24
財務戦略

▶ P.36
家庭用品事業

▶ P.56
コーポレート・
ガバナンス

※旧会計基準で
2,500億円超の水準

アース製薬株式会社
代表取締役社長 CEO

川端克宜

子会社に対しては、財務情報や仕入れ価格の見える化を促しつつ、各社が独自の判断を下せるようにしてきました。しかし、昨今の物価高や取引先との関係性を考えると、スケールメリットを活かし、戦略的な調達や経営判断をするべき局面にきています。各社単独での成長には限界があっても、グループとしての強みを活かすことで、個社の価値を最大限に引き出すことが可能です。この変化の時期、そして設立100周年を機に、各社の独自性を尊重しつつ、グループ全体としての最適な経営を実現することが重要だと考え、現在のアースグループにとってホールディングス機能の強化を進めることが最適であるとの判断に至りました。独立採算で自由度を担保するよりも、グループのシナジーを意識しながら一定の領域では統制を強化し、組織の方向性を明確に示していきたいと考えています。

ホールディングス機能の強化は経営のスピードを低下させると懸念されることもありますが、アースグループは柔軟かつ迅速に意思決定を行い、むしろ成長を加速できると考えています。各社が独自の判断で事業を進めている現状を踏まえ、新体制に移行することで、しっかりとグループ全体での戦略を立案し、グループが持つ資源をホールディングス機能がコントロールし、スピード感を持って進めていきます。

▶ P.20
中期経営計画

社長メッセージ

経営は生き物であり、時には新たな枠組みを導入したり、元の形に戻ったりすることもあります。変化に対応することは容易ではありませんが、今こそ実行の時です。ホールディングス機能の強化の意義を社内外にしっかりと伝えながら、より強固なグループ経営を目指してまいります。

「地球を、キモチいい家に。」に込めた思い

アースグループの方向性や価値観を、実際の行動につなげる。

変化の激しい時代において、企業が持続的に成長するためには、単なる対応ではなく、積極的に未来を描きながら進んでいくことが重要です。私がアースグループの経営に携わる中で、変化への対応の1つとして2017年にコーポレート・アイデンティティ(CI)の改定を行いました。これはただロゴを変えるだけではなく、企業としての方向性や価値観を再定義する重要なプロセスでした。

CIの刷新を決めた背景には、グローバル展開の加速がありました。当時のロゴにはカタカナ表記が含まれており、海外市場での認知を考えた際に適切な形へと進化させる必要があったのです。新たなスローガンとして「Act For Life」を掲げ、日本語では「地球を、キモチいい家に。」と表現しました。この言葉は、商品・サービスの提供を通じて、人々の生命・生活に寄り添い、安全で快適な生活に貢献していくというアースグループのお客様との約束を表しています。

「家」は、人にとって最も落ち着ける場所であり、安心できる空間です。私たちは、地球全体がそのような場所になるよう、商品やサービスを通じて環境をより良くしていきたいと考えています。また、社員にとって会社もそのような場になれるよう、働きやすい環境を構築していくことも重要です。CIの改定は、こうした価値観を明確にし、社内外へ共有するための大切なステップでした。

経営理念や「アースバリュー」「アースポリシー」も、ただ掲げるだけでなく、日々の経営に活かすことが重要です。理念は形だけのものではなく、実際の行動につながってこそ意味があります。そのために、最近では会議などの場で理念を意識する機会を増やし、組織全体で共有しながら運営しています。

「すぐやる」——これは前社長の大家達也がよく口にしていた言葉です。私もこの精神を引き継ぎ、理念や目標は言いつばなし、掲げつばなしにせず、すぐに対応していくということを重視しています。

自ら成長する人財を見出し、能力や個性を伸ばすことが経営の役割

会社に誇りを持ち、ここで働くことを「好きだ」と思える環境づくりに注力していく。

アースグループは、企業の成長において人財の重要性を強く認識しています。しかし私は、人は「育てる」ものではなく「自ら成長する」ものであり、それを見出すのが経営の役割だと考えています。多様な価値観や個性が集まることで組織は強くなります。だからこそ、特定のタイプの人財を育成するのではなく、それぞれが持つ能力や個性を活かし、誇りを持てる環境を整えることが重要です。

社員一人ひとりが「自分の会社は良い会社だ」と思えることが理想です。その基準は人それぞれですが、重要なのは心理的負担なく働き、自分の成長と会社の成長がリンクしていると感じられることです。組織運営においては、役割をガチガチに固定化するのを避けて、柔軟性を持たせることが不可欠です。野球にたとえるなら、「ここは自分の守備範囲じゃないから関係ない」と線引きするのではなく、互いに助け合いながら業務を遂行できる組織を目指しています。

また、組織が成長するにつれて役職や部署が増えるのは自然な流れですが、組織はシンプルであるべきだとも考えています。細かく分けすぎるのは柔軟性を損ない、協力体制を邪魔する可能性があります。だからこそ、成長とシンプルさのバランスを取りながら、柔軟で強固な企業文化を築いていくことが重要です。

どんなに優れた企業でも、完璧な組織は存在しません。他社の方が良い会社に見えることがあるかもしれませんがどの企業も課題を抱えながらもがいています。だからこそ私は、挑戦し続ける姿勢を大切にしたいと考えています。

アースグループは、2025年に100周年を迎えました。この節目にあたり、私が最もこだわるのは、「自由と成長が共存する環境をつくること」です。社員が自由に挑戦し、それぞれの能力を最大限に発揮できる環境を整えることが経営の責任だと思います。自由は決して無秩序ではありません。会社と社員が相互に支え合いながら成長することが大切だと考えています。私たちは、決められた枠に人を当てはめるのではなく、それぞれの個性を活かしながら成長できる場を提供します。社員が会社に誇りを持ち、ここで働くことを「好きだ」と思える環境づくりに注力し、心理的な負担を最小限に抑えながら、常に改善を続けていきます。

次の100年に向けてさらなる成長を目指す

アースグループの原動力は「お客様目線」を徹底的に追求するという信念と、変化に対応し続けながらチャレンジする精神にあります。100年の歴史を持つ企業として、これまで築いてきた価値を大切にしながら、グループ全体の力を結集し、急激な社会の変化によって生じる世界中のお客様の悩みに柔軟に対応し続けていきます。そして、安全で快適な暮らしを守ることを使命とし、日々取り組んでまいります。

アースグループは次の100年に向けて、持続的な成長と企業価値の向上を目指し、ステークホルダーの皆様とともに新たな価値を創造しながらより良い未来の実現に努めていきます。引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年3月
アース製薬株式会社
代表取締役社長 CEO

川端 克宜

▶ P.1
アースグループ
経営理念

▶ P.32
研究開発戦略
[本部長メッセージ]

▶ P.16
ステークホルダー
エンゲージメント

▶ P.1
アースグループ
経営理念

▶ P.28
アース製薬の
人的資本経営

▶ P.30
人財戦略



アース製薬の価値創造プロセス

経営理念

いのち
生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。

インパクト

地球との共生を実現し、
快適な暮らしができる喜び

外部環境認識

▶P.18

インプット

▶P.14

ビジネスモデル

▶P.14

アウトプット

▶P.15

アウトカム

将来価値創造に向けたアウトカム

▶P.15

気候変動

生態系
の変化

人口動態
の変化

テクノロジー
の進化

マテリアリティ

▶P.19



財務資本

- 自己資本 688億円
- 有利子負債 52億円



人的資本

(数値は2024年12月期)

- 従業員数(連結) 4,878名
- 研究開発部門に属する社員(連結) 347名
- 高い技術力と専門性を持つ環境ドクター* 470名
- 女性従業員比率 40.6%
- キャリア採用数 38名
- 新卒採用数 61名
- 総研修時間 39,466時間



知的資本

- 高付加価値商品の開発
- 研究開発に関わる専門性の高い人材
- 産学連携、協力機関との研究
- 保有特許件数 348件
- TACOシステム*



製造資本

- 設備投資額 167億円 (2022~2024年 3年間累計)
- 製造拠点 12カ所(グローバル)
- 生産性の向上に資する生産管理システム



社会・関係資本

- サプライヤー 209社
- 虫ケア市場シェアNo.1(57.3%)*1
- 日本MA-T工業会*の設立
- 全国販売網 約107,000件
- 衛生管理支援サービスを
提供するパートナー企業 700社



自然資本

- 水使用量(取水量) 123.2千㎡
- エネルギー使用量 125,161GJ
- CO2排出量(Scope1、2) 3,605t-CO2

*1 インターナショナルSRI+ 殺虫剤市場(園芸剤除く)
全国計・全業態計 2024年1月~12月
累計販売金額

*2 2020年比

*P.68「用語集」参照

日本からアジアへ
安全で快適な暮らしを実現

アジア地域の衛生環境向上・
快適な暮らしの実現

商品・サービスを通じて
日々の暮らしの質の向上を実現

虫ケア用品を中心として
生活のお悩みを解消

現在の
アース製薬

将来の
アース製薬

中期経営計画

[Act For SMILE COMPASS 2026]

海外の
売上拡大

収益
構造改革

グループ経営力
強化

アース製薬の強み ▶P.14

「虫」に関する
圧倒的な専門知識

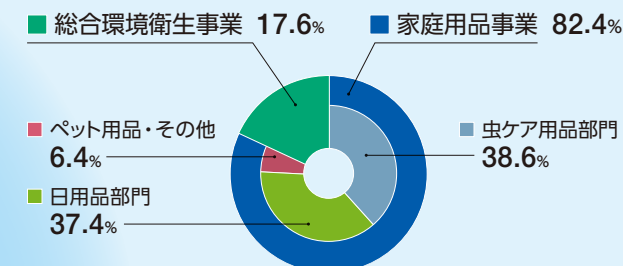
全国に広がる
販売網・営業力

お客様目線
での商品開発

価値創出を支える基盤

コーポレート・ガバナンス

事業部門別売上高



家庭用品事業 1,489億円

虫ケア用品
部門
697億円

日用品
部門
676億円

ペット用品・
その他部門
115億円



総合環境衛生事業 318億円



事業からの排出物

- CO2排出量(Scope1、2) 3,605t-CO2
- 産業廃棄物排出量 3,543t

経済的価値

- 1株当たり配当 120円
- 総還元性向 133.3%
- TSR(10年(累積)) 168.0%

社会的価値

人的

- 従業員エンゲージメントサーベイ B(全11段階)
- 有給休暇取得率 76.6%
- 女性管理職比率 11.8%

知的

- お客様のお気づきを活かす窓口部
対応件数 年間約9万件
- 独自知財を活かした商品の継続的な
商品開発(テネバナル、MA-Tシス
テム®)
- 特許登録件数 42件

社会・関係

- 商品の提供・啓蒙活動を通じて虫を
媒介とした感染症の拡大を防止
- 高品質な虫育成技術により研究試料
として公的機関などへの提供 27機関、19,357匹
- 防災に寄与する商品開発による地域
貢献
- 5年連続「健康経営優良法人2025~
ホワイト500~」に認定
- 「健康経営銘柄 2025」に初選定
- 総合環境衛生事業契約件数 15,560件

環境価値

- CO2削減率 33.9%減*2
- GHG排出量に関する第三者検証取得
- 水使用効率 0.6%向上*2
- 産業廃棄物最終処分率 1.1%

経済的価値

- 安定的かつ継続的な
株主還元
- グループシナジーによる
企業価値の向上

社会的価値

- アジア地域の人々の
衛生環境向上、快適な
暮らしの実現
- Well-beingを実感できる
職場環境の整備・
社内文化醸成
- 経営・事業戦略に必要な
人材の確保・育成
- 多様な人材の自律した
キャリア形成支援と
仕組みの整備

環境価値(2030年数値)

- CO2排出量46%削減*2
- 再生可能エネルギー率95%
- 水使用効率10%向上*2
- 産業廃棄物の
ゼロエミッション

アース製薬の価値創造プロセス解説

アース製薬は、経営理念である「地球との共生」の実現を目指し、人々の健康と快適な生活を支える商品の開発・製造・販売に取り組んでいます。衛生環境や安心・安全への意識が高まる中、家庭用品事業と総合環境衛生事業の両面から、社会の変化に対応しながら価値を提供し続けています。こうした取り組みを世界へと広げるべく、グローバル展開を強化しながら事業領域の拡大にも挑戦しています。

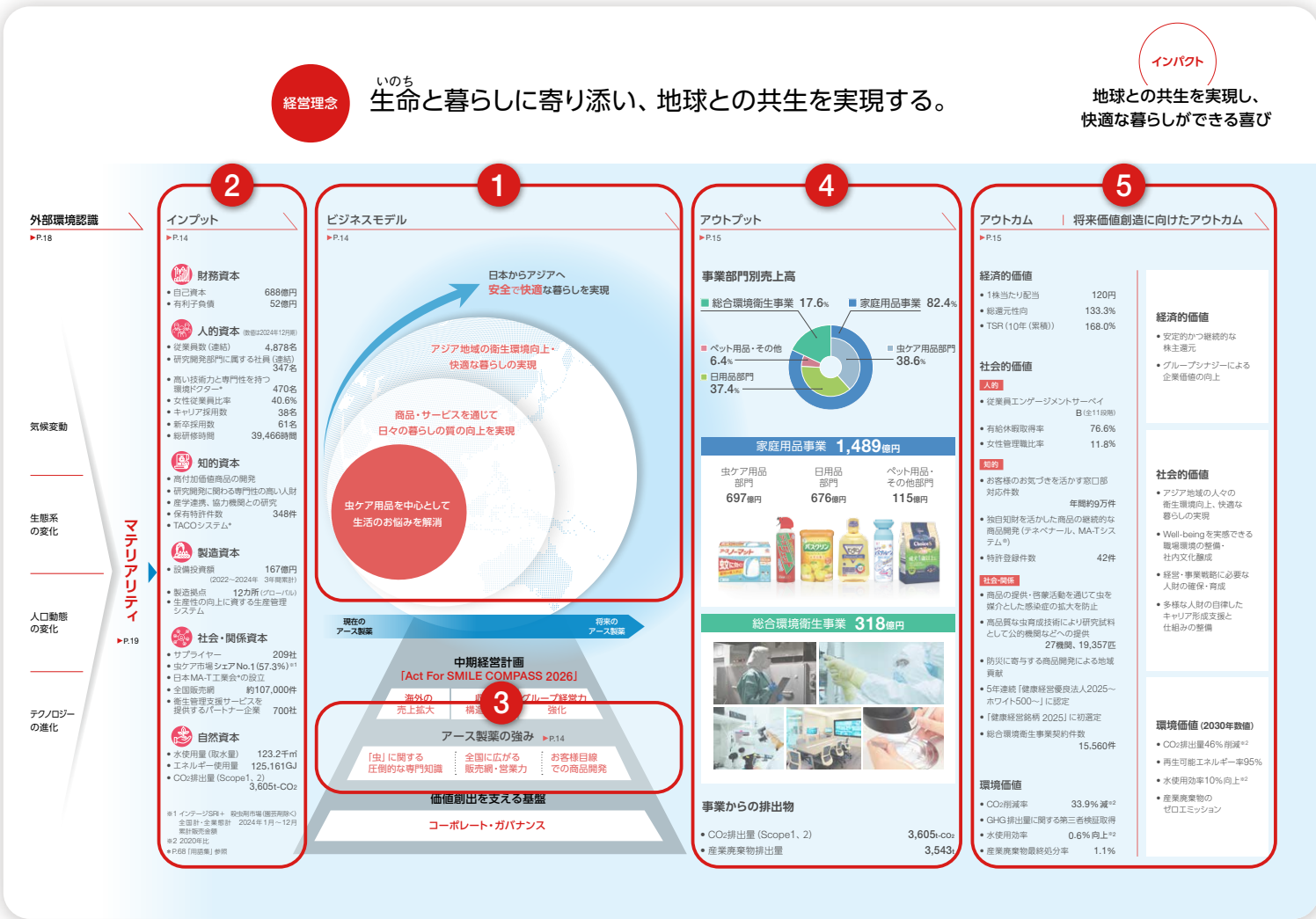
① ビジネスモデル

アース製薬のビジネスモデルは、お客様の衛生環境や住環境に関する悩みを解消する商品やサービスを、「家庭用品事業」と「総合環境衛生事業」の両面から提供し、安全で快適な暮らしを支えるものです。当社のビジネスは「研究開発・商品開発」「生産管理」「営業戦略」「グローバル戦略」の4つの機能からなります。「研究開発・商品開発」は、独自性の高い商品を生み出す要です(研究開発戦略[本部長メッセージ]▶P.32)。「生産管理」では、中期経営計画で掲げる収益構造改革の実現に向けて、業務プロセスの効率化・高度化のための基幹システムを導入し、2024年より運用を開始しています。今後もスループットを可視化しながらそれらを高める仕組みを構築し、収益、キャッシュ・フロー向上に寄与するよう、モノづくりのさらなる進化を目指します。そして、「営業戦略」と「グローバル戦略」に基づく緻密な市場調査や業界屈指の営業部員数を活かした「お客様目線」での独創的な売り場づくりを行い、日本からアジアへ向けて「快適な暮らし」を広げていくことを目指しています。

② インプット

2024年度末時点の自己資本は688億円、自己資本比率は50.8%、有利子負債は約52億円であり、将来の環境変化に伴うリスクと機会に対応できるよう、健全な財務資本を維持しています。アースバリューに「人がすべて」を掲げるアース製薬にとって、連結で4,878名の人的資本は欠かすことのできない経営資源です。研究開発を推進する347名の人財が、高付加価値商品などの開発に取り組み、当社の競争優位性を支えています(研究開発戦略▶P.34)。知的資本としては、2024年時点で348件の特許を保有しています。また、国内外に12カ所の製造拠点を有し、お客様にタイムリーに高品質な商品を提供する体制を構築しています。209社のサプライヤーや約107,000件*の全国販売網との良好な関係は、さまざまな価値を共創するために重要な社会・関係資本です。さらに、アース製薬では、「地球環境問題への配慮」をマテリアリティに掲げ、資源の有効活用と廃棄物削減による企業価値の向上にも取り組んでいます。

※自社調べ



③ 強み

「虫」に関する圧倒的な専門知識

赤穂研究所にある生物研究棟は、他に類を見ない害虫研究施設です。国内外に生息するゴキブリ(約100万匹)やハエ、蚊、ダニなどの生物約90種類以上を飼育しており、年間約43万匹を実験や研究に使用し、商品開発につなげています。近年の成果としては、既存薬剤に抵抗性を示す「抵抗性トコジラミ」に対して新たに駆除可能な商品を開発しました。商品の有用性に関する学会発表を行うなど、その専門性の高さはほかの研究者からも評価されています。

全国に広がる販売網・営業力

アース製薬は、全国約107,000件の小売店や販売代理店を通じて商品を販売しています。バイヤーや店舗の担当者とのコミュニケーションを大切にし、自社商品に限らず、小売店における商品カテゴリー全体の売上アップを考え、季節に合わせた提案を行っています。お客様との接点である店舗では、約200名の「EMAL(エマル)」によって季節や気候などの動向を踏まえた売り場づくりと、販売促進をサポートする体制を築いています。

④ アウトプット

家庭用品事業と総合環境衛生事業の2つの事業において、地球上すべての人々に必要とされる商品とサービスを提供し、人々の健康と快適な生活を実現します。家庭用品事業は、虫ケア用品や入浴剤、洗口液などが主力商品で、虫ケア用品と入浴剤の国内シェア*1位、タイにおいては虫ケア用品シェア2位など、お客様からの支持を獲得しています。総合環境衛生事業では、子会社のアース環境サービス(株)が、食品、医薬品、医療、容器、包材、物流、倉庫など、多様な業種において異物混入や汚染を防ぎ、最適な衛生環境を維持・改善するためのサービスを提供しています。

※アースグループでの入浴剤シェア

⑤ アウトカム

当社は人々の生命の営みに寄り添い、さらに豊かで快適な生活を実現する商品やサービスを提供しています。気候変動や生態系の変化、テクノロジーの進化などに伴い、衛生環境や安心・安全に対する意識が大きく変化する中で、アースグループは地球環境に配慮しながら、お客様の健康と生活の向上に貢献する「お客様目線」を大切にしたモノづくりによって、高品質な商品、一步先の快適さという価値を創造しています。人々のQOLの向上を実現し、事業を通じてお客様や株主の皆様、お取引先様、従業員、そして環境や地域社会など、すべてのステークホルダーの皆様へ、価値を提供していきます。

お客様目線での商品開発

「お客様のお気づきを活かす窓口部」にいただく年間約9万件の「お気づき」は、品質向上のための重要な情報であり、暮らしの課題に対するご意見を新商品の開発や既存品の改善に活用しています。また、お客様が実際に使用される状況を想定した試験の実施など、安心して使用いただける取り組みも行っています。

ステークホルダーエンゲージメント

アース製菓の事業活動は、「お客様」「社員とその家族」「サプライヤー」「株主・投資家」「地域社会」など、さまざまなステークホルダーの皆様を支えられています。各ステークホルダーの皆様と共有価値を創出するために、コミュニケーションを重視し、対話ができる環境づくりを目指しています。

ステークホルダー		ステークホルダーの 期待・関心・ニーズ	アース製菓の責任	エンゲージメント手段	ステークホルダーと共有する価値	
					共有価値の事例	関連する資本
 お客様 (消費者・お取引先様)	当社は、BtoBおよびBtoCのビジネスを行っています。商品のユーザーには一般消費者や企業様があり、販売チャネルとなる卸業者、小売、ECサイトなどのお取引先様が、大切なお客様です。	●地域や文化、外部環境の変化に合わせた商品開発と提供 ●消費者のニーズの多様化に対する最適なサービスと商品の開発 ●日常生活の公衆衛生や商品に関する質問や疑問に対する迅速で的確な情報提供 ●人や環境に配慮した商品・サービス	●お客様の生命と暮らしに寄り添い、商品・サービスを通じて良質で快適な暮らしを提供することに努めます。 ●お客様とのコミュニケーションを大切にし、いただいた声をより良い経営に活かすことに努めます。 ●公正な取引に関連する法令や社内ルールを遵守します。 ●事業環境の変化に迅速に対応する体制を構築します。 ●速やかな情報提供、監査や情報開示依頼に協力します。	●お客様や事業環境の把握と人や環境に配慮した商品開発 ●営業活動を通じたコミュニケーション ●適正な在庫管理体制の運用 ●お客様のお気づきを活かす窓口やお問い合わせフォームの設置 ●広告宣伝 ●ウェブサイトなどによる情報提供 ●アンケートや評価機関対応による客観的指標への対応と取り組み開示 など	●お客様からお気づきを頂く窓口の対応件数 ●お客様のお声や社員の提案が活かされた商品 ●化学物質管理をはじめとする情報提供 ●お客様のニーズや事業環境の変化に合わせた商品開発 ●人や環境に配慮した商品開発と商品の提供 ●危機管理情報の開示 ●安定した商品の供給	 社会・関係
 社員とその家族	多様な人材の活躍は、当社の成長の原動力です。当社の従業員に加え、従業員を支えるご家族もまた、当社の価値を創造するステークホルダーです。	●安全な職場環境、心理的安全性確保 ●働き方改革、柔軟な働き方の実現 ●ダイバーシティ ●エンゲージメント向上 ●モチベーションアップ、充実したキャリア教育 ●ワークライフバランスの実施 ●納得感のある評価、賃金	●アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、社員間のコミュニケーションを大切にし、社会とともに発展・成長します。 ●社員が働きがいや、やりがいをもって活躍できる職場を目指します。 ●従業員を支えるご家族が安心できる環境づくりに努めます。	●社内報・イントラネット ●各種研修の実施 ●ピアボナス制度 ●個別目標管理 ●個別面談 ●学習機会の提供や学習にかかる費用の補助 ●エンゲージメント調査 など	●有給休暇取得率の向上 ●女性管理職比率の向上 ●従業員満足度・組織力の向上 ●従業員1人あたり/単位時間あたりの売上高・営業利益率の向上 ●昇給 ●研修機会(リスキリング)の提供 ●健康管理、ヘルスリテラシーの向上	 人的／知的
 サプライヤー	調達・製造委託・物流全般・廃棄、インフラ提供、各種制作やコンサルティング支援をお願いするお取引先様は当社の重要なサプライヤーです。当社の事業は多くのお取引先様のご協力やご賛同により支えられています。	●適正で公正かつ倫理的な取引(コスト・納期・品質・指図・条件・コンプライアンスなど) ●人権、社会、環境への配慮 ●情報開示(SDS、化学物質関連) ●生産性向上 ●リスクマネジメント(BCP・機会・影響度など) ●取引することで共に成長できる関係	●調達方針に基づき、社会や環境に配慮し、持続可能な社会の実現に向け、公正なお取引引きおよび調達を実施します。 ●お取引先様と共に成長できる関係を構築すると同時に、それに賛同し、励行いただけるよう働きかけます。 ●業界を超えてイノベティブな取り組みを積極的に行います。	●購買活動を通じたコミュニケーション ●お取引先様との情報交換 ●CSRセルフアセスメントの実施 ●物流効率の向上と社会課題解決 ●コスト削減 ●原料や資源の使用削減と効率的利用 ●廃棄物削減 ●グループや社外との協力的交流とシナジーの創出 ●情報開示 ●サプライヤー行動指針 など	●セルフアセスメント取得率 ●CO2や資源の削減量 ●包材、認証紙使用量の開示:お取引先様、ステークホルダーの皆様との提携による社会的責任の遂行 ●マルチステークホルダー宣言&パートナーシップ構築宣言	 社会・関係／自然
 株主・投資家	株主の方々は、資本の提供や議決権の行使を通じて当社の経営基盤を支える重要なステークホルダーととらえています。また積極的な情報開示および対話を重ね、長期的な信頼関係を築いていきます。	●株主への適正な利益還元 ●遅延のない利払い・元本(借入金)の返済 ●企業価値(時価総額)の向上 ●新規事業の収益化 ●既存事業の収益性向上 ●情報開示や発信、および対話 ●計画や宣言へのコミットメント	●適時、適切な情報開示により、説明責任を果たし、経営理念やビジョン、計画などの理解促進を図り、企業価値が適正に評価されることに努めます。 ●ESG外部評価機関への誠実な対応を行います。 ●非財務情報の積極的な開示と指標化・定量化に努めます。	●株主総会 ●機関投資家・アナリスト向け決算説明会 ●個別面談 ●ウェブサイトなどによる情報提供 ●施設見学会 など	●配当 ●総還元性向 ●TSR(10年) ●利子 ●元本返済 ●報告書の発行	 財務
 地域社会	当社は、地域や自治体、非営利団体などが抱える社会課題を事業領域において解決し、地域社会に貢献することを目指しています。また、教育活動や啓発活動を行い、企業価値や商品価値の向上を実現する社会貢献活動を行います。	●地域との関わりと対話 ●地域への貢献や雇用促進 ●各種団体への積極的参画 ●パブリックコメントの発信 ●業種に縛られない積極的な交流とイノベティブな取り組み ●循環型社会の形成	●わかりやすい情報開示に努めます。 ●地域の皆さんに開かれた会社を目指します。 ●志を同じくする団体への賛同や加盟を積極的に行います。 ●消費者のニーズの多様化に対する最適なサービスと商品を開発します。 ●国際社会との共生を目指し、保健衛生の向上、文化・スポーツの支援などに取り組み、社会に貢献します。	●出張授業や学生受け入れの実施 ●各種イベントの参加と開催 ●各地方自治体との包括連携協定 ●寄付・支援 ●地域支援・清掃活動 など	●地球規模での感染症などの減少に寄与する取り組み ●被災地、途上国や貧困者への寄付と支援への参画 ●虫媒介感染症対策の啓発イベント、教育活動、商品提供 ●防災に寄与する商品開発による地域貢献 ●インターンや訪問の受け入れ、学生の社会学習機会の創出 ●サステナビリティ報告書やESGデータの開示 ●地域清掃活動 ●各地方自治体との包括連携協定	 社会・関係
 地球	気候変動、人口変動やグローバル化などにより、生物の生息域が変化し、生物多様性が脅かされ、それに伴い人間の生活も影響を受けます。さまざまな生物が共存する生態系である地球は、当社にとって大切なステークホルダーの1つです。	●環境負荷低減 ●法令を超えた認識と対応 ●コンソーシアムへの参画 ●積極的ガイドラインの策定や認識と行動 ●生物多様性の保全 ●循環型社会の形成 ●アニマルウェルフェア	●使用する化学物質による大気や水質、土壌の汚染を防止します。 ●原料として調達する資材が環境、人権を侵さないか、行動指針の遵守を徹底します。 ●消費者のニーズの多様化に対する最適なサービスと商品を開発します。 ●地球環境にやさしい商品・サービスの提供を通じた地球環境の保全を実施します。 ●自然を正しく理解した上で、地球との共生を実現します。	●脱炭素に向けた取り組み ●包装材や資源の使用効率の向上と削減 ●環境方針 ●化学物質管理方針 ●生物多様性の保全活動 など	●アースECO基準*に基づいた商品開発 ●カーボンニュートラルの実現へ ●再生可能エネルギー化 ●水使用効率向上 ●森林認証紙の使用率向上 ●産業廃棄物のゼロエミッション ●各種コンソーシアムや評価機関への対応と取り組み ●環境保全(アース坂越の森の保全など)、外来生物対策、飼育ノウハワを活かした昆虫種の保存 ●第三者保証 ●行政への報告	 自然

*P.68「用語集」参照

リスクと機会、マテリアリティ

アース製菓は、サステナビリティ経営を推進するにあたり、事業を取り巻くさまざまなリスクを認識し、リスクから見出される事業機会を特定しています。これらリスクと機会への取り組みを通して、マテリアリティ（重要課題）の解決を目指します。

●リスク ●機会

経営に重要な影響を与える
外部要因

気候変動

生態系
の変化

人口動態
の変化

テクノロジー
の進化

リスクと機会		取り組み
気候変動・生態系	● 気候変動による生態系の変化	・CO ₂ 排出量、廃棄物、化学物質使用における管理と報告 ・外来種や気候変動により影響を受ける生態系に対応する研究の強化 ・気候変動に対応する商品の開発とマーケティングの強化 ・環境衛生管理ニーズの高まりによる総合環境衛生事業の強化
	● 事業の高い季節性	・事業の柱を強化し、通年の収益安定の確保
	● パンデミックにおける事業への影響	・BCP、BCM強化
	● 循環型社会への順応	・リサイクルや環境配慮素材を使った開発
	● 外部環境の変化に合わせた研究・商品開発	・生物多様性の方針策定と取り組み ・害虫の正しい知識や予防対策の啓発 ・アクティビティに対応した商品群の拡充
人口動態	● 労働人口の減少による人財の確保	・働きやすい職場づくり ・自律したキャリア形成支援
	● ダイバーシティ&インクルージョン	・多様化する人財の活躍推進
	● 労働環境の整備	・人権方針、労働慣行方針の策定 ・健康経営に向けた活動推進
	● グローバルに市場が拡大	・アジア収益基盤の拡大のため商圏を拡大 ・積極的なグローバル人財の育成と採用
法的規制	● 国内外の事業に関する各種法規制への対応	・薬機法や化学物質規制などの対応 ・各種コンソーシアムへの参画による情報収集
	● 情報開示基準の変更にに対する対応	・投資家やお取引先様などのステークホルダーとの対話
サプライチェーン	● 原材料の代替性	・複数購買や代替原料の検討と開発
	● 品質に関するリスク	・自社および委託先工場の定期的な監査の実施 ・品質に関する教育活動の実施
	● サステナブル調達	・サプライヤー行動規範の改定
	● 原料価格高騰への対応	・グループ経営強化によるコストシナジーの創出
	● 物流環境変化への対応	・効率的な物流網の構築
IT・デジタル化	● 情報漏洩やセキュリティの脅威	・情報セキュリティの強化
	● モノづくりイノベーションの創出	・産学官や企業間の協業 ・MA-Tシステム®の使用拡大 ・知財戦略の強化
	● デジタル技術の活用	・業務の標準化や見える化による管理 ・生産体制強化のための、連携システム開発と導入 ・生成AIの導入や活用 ・IoTを活用したサービス提供

マテリアリティ特定のプロセス

1	課題の抽出	サステナビリティ分野における国際的なフレームワークやガイドライン等を参考に課題を抽出
2	マテリアリティ特定	CSRサステナビリティ推進委員会および部門長により、当社の方向性をふまえ、事業における課題の重要度を評価し、マテリアリティ(案)を作成
3	重要度の評価	経営層・社外取締役へのインタビューを経て、取締役会により審議の上、マテリアリティを承認

マテリアリティ (重要課題)	重点テーマと 主な施策	目標・KPI	目標・KPIの進捗 (2024年度実績)	
			実績	特記事項
気候変動への 対応	CO ₂ 排出量を削減 します。	● CO ₂ 排出量削減:2020年比で (Scope 1、2) ・14%削減 (2023年) ・28%削減 (2026年) ・46%削減 (2030年)	33.9%削減	－
	電力の再生可能エネルギー化 を進めます。	● 再生可能エネルギー化: ・工場の再エネ化 [再エネ率60%] (2023年) ・研究所の再エネ化 [再エネ率90%] (2026年) ・オフィス*の再エネ化 [再エネ率95%] (2030年) ※テナントオフィスを除く	再エネ率66.7%	－
地球環境問題 への配慮	モノづくり (研究開発から生 産) にかかわる水の使用効率 を向上させます。	● 水の使用効率の向上:2020年比で ・3%向上 (2023年) ・6%向上 (2026年) ・10%向上 (2030年)	0.6%向上	生産量やアイテム数増加 に伴い、品目切替時の 洗浄水の使用量が 増えたため
	循環型社会を目指し、資源を 有効に活用します。	● 工場・研究所からの産業廃棄物等の ゼロエミッション (最終処分率1%以下) ・処理委託先の状況調査・見直し (2023年) ・工場と研究所のゼロエミッション (2026年) ・工場と研究所のゼロエミッションの維持 (2030年)	最終処分率:1.1%	－
	アースECO基準を定め、環境 に配慮した製品の拡大を推進 します。	● アースECO基準設定 (2023年) ● アースECO基準対応商品の拡大と情報開示 の推進 (2026年、2030年)	情報開示に向け 取り組み実施中	アースECO基準は 2022年設定済
持続可能な 調達の推進	環境などに配慮した 製品包装材料の調達を推進 します。	● 森林認証紙の使用率 (重量): ・使用率を10%以上 (2023年) ・使用率を30%以上 (2026年) ・使用率を70%以上 (2030年)	17.9%	森林認証紙 525t／ 紙器全体 2,929t
安心で快適な 暮らしに貢献する 製品・サービスの 提供	お客様の満足と信頼を損ねる 品質重大事故をゼロにするた め、自社工場、製造委託先工 場の定期品質監査実施率を 向上させます。	● 定期品質監査実施率:100%を維持 (2023年、2026年、2030年)	100%	47カ所／47カ所
	関連法令を遵守し、違反につ ながる重大事故をゼロにする ため、教育訓練年間計画の実 施率を向上させます。	● 教育訓練の実施率:100%を維持 (2023年、2026年、2030年)	100%	28回／28回
多様な人財の 活躍を支える 職場の実現	年次有給休暇の取得を促進 します。	● 有給休暇取得率:70%以上を維持 (2023年、2026年、2030年)	76.6%	夏季計画年休 (拡大選択制) 有休奨励日設定 (年6日) 実施
	女性活躍推進のため、管理職 相当に占める女性の割合を上 昇させます。	● 女性管理職比率: ・10%以上 (2023年) ・18%以上 (2026年) ・30%以上 (2030年)	11.8%	35名／297名
経営基盤 の強化	－	－	－	－